

# 商船系大学における 海事人材育成に関する懇談会

## 学生アンケート結果と今後の考え方

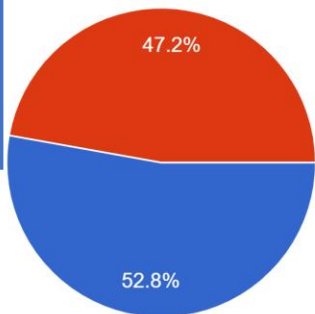
2021.9.17

東京海洋大学 庄司るり

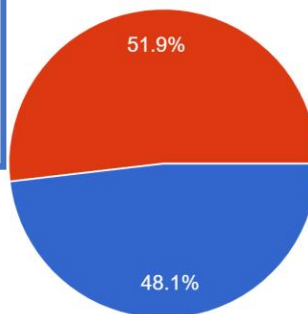
2021年度在学学生内訳	1年次	2年次	3年次	4年次
海事システム工学科	62名	63名	73名	81名
海洋電子機械工学科	61名	64名	68名	63名
(機関システム工学コース)			(37名)	(40名)
(制御システム工学コース)			(31名)	(23名)

# 1. 所属学科を教えてください。

1年生  
89/123名  
回答率72%

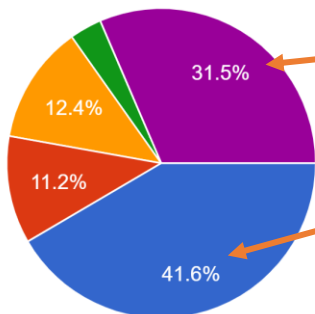


2年生  
81/127名  
回答率64%



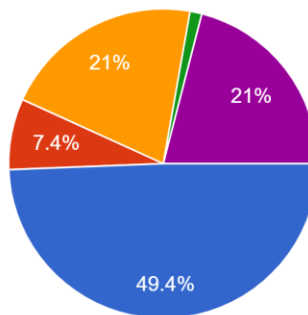
- 海事システム工学科
- 海洋電子機械工学科

# 2. 海洋工学部に入学したときには、卒業後の進路についてどのように考えていましたか。



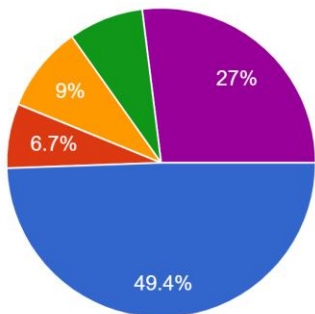
他の学年と比べて『決めていない』が多い

回答者に占める海事システム工学科の学生の割合が多いにもかかわらず、船舶職員希望の割合が少ない

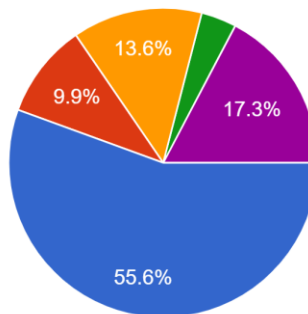


- 船舶職員 (航海士、機関士)
- 船舶関連技術者 (陸上)
- 一般の技術者 (陸上)
- その他の進路
- 特に決めていなかった

# 3. 1年次の海技教育機構の練習船による船舶実習を経験した後に、卒業後の進路の希望はどのようになりましたか。



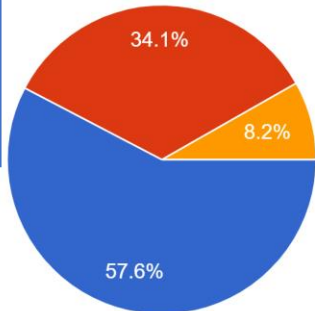
船舶実習後の船舶職員希望が増加



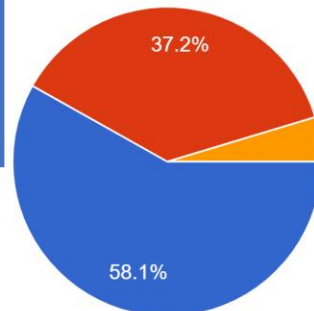
- 船舶職員 (航海士、機関士)
- 船舶関連技術者 (陸上)
- 一般の技術者 (陸上)
- その他の進路
- 特に決めていなかった

# 1. 所属学科を教えてください。

3年生  
85/141名  
回答率60%

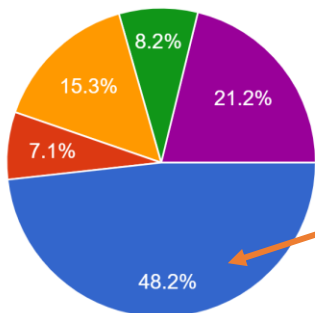


4年生  
86/144名  
回答率60%

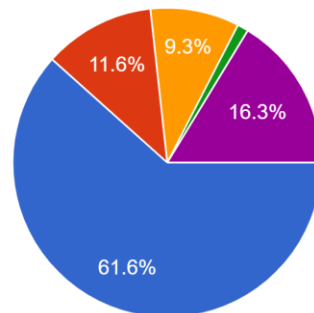


- 海事システム工学科
- 海洋電子機械工学科（機関システム工学コース）
- 海洋電子機械工学科（制御システム工学コース）

# 2. 海洋工学部に入学したときには、卒業後の進路についてどのように考えていましたか。

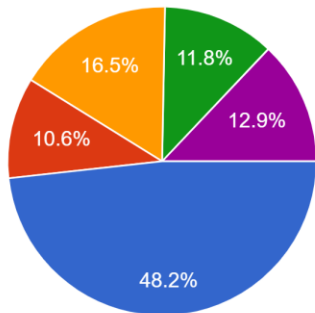


回答者に占める海事システム工学科の学生の割合が多いにもかかわらず、船舶職員希望の割合が少ない

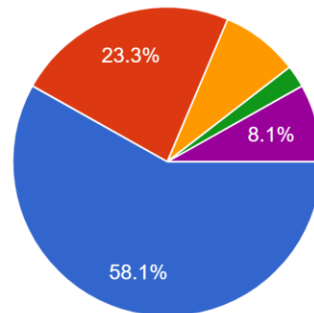


- 船舶職員（航海士、機関士）
- 船舶関連技術者（陸上）
- 一般の技術者（陸上）
- その他の進路
- 特に決めていなかった

# 3. 1年次～2年次（3年次）の海技教育機構の練習船による船舶実習を経験した後に卒業後の進路の希望はどのようになりましたか。



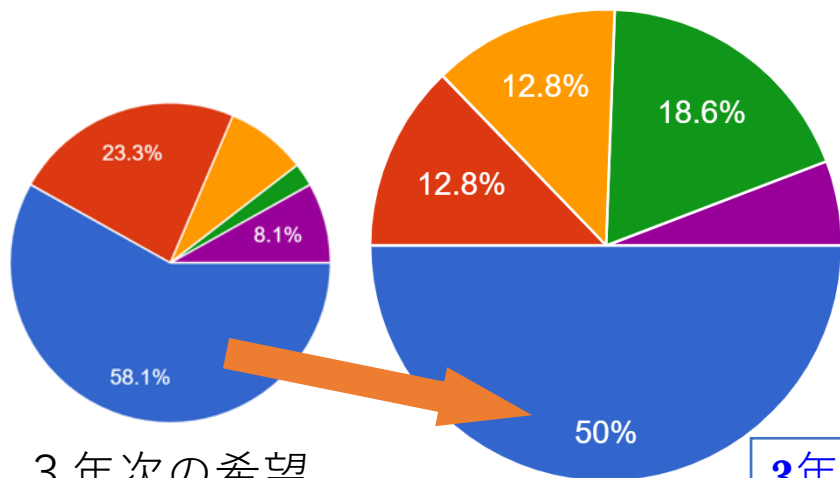
船舶実習後の船舶職員希望変わらず



- 船舶職員（航海士、機関士）
- 船舶関連技術者（陸上）
- 一般の技術者（陸上）
- その他の進路
- 特に決めていなかった

4 . 現在の進路（希望、内定）を教えてください。

4年生：86名



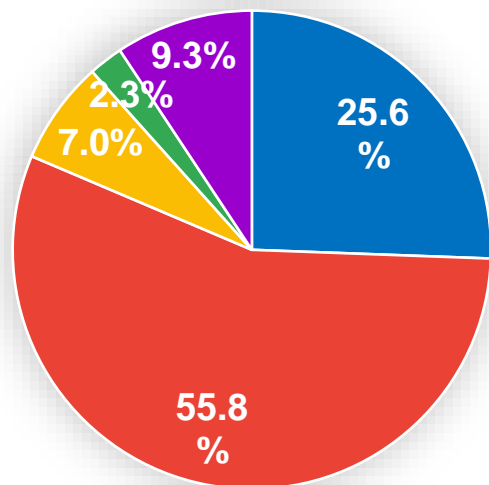
- 船舶職員（航海士、機関士）
- 船舶関連技術者（陸上）
- 一般の技術者（陸上）
- 大学院進学
- その他

3年次の希望  
(前ページの再掲)

3年次の時と比較して、船舶職員の内定は減少

5 . 前の質問で船舶職員以外を選択した学生に伺います。海技教育機構の練習船による船舶実習は、今後、社会に出た際に活かされると思いますか。

船舶職員以外：43名



- 81.4% {
- 活かされる
  - ある程度活かされる
  - あまり活かされない
  - 活かされない
  - わからない

船舶職員にならない学生も船舶実習は活かされると考えている

6. 学部での船舶実習の期間を短縮し、乗船実習科での乗船期間を現状の6ヶ月から9ヶ月あるいは**12ヶ月に延ばした場合**について、あなたの意見に近いものを選んでください（複数選択可）。 **4年生：86名**

①継続的に集中して船舶実習ができるので、しっかりとした教育を受けられる。	19(22.1%)
②学部在学中の船舶実習が短くなれば、授業の取り方の自由度が上がって良い。	21(24.4%)
③ <b>海技士の資格を取るために必要</b> なので、修了時期が延びても乗船実習科に進学したい。	22(25.6%)
④乗船実習科での乗船期間が6ヶ月から9ヶ月に延びるならば、乗船実習科には進学したくない。	7(8.1%)
⑤乗船実習科での乗船期間が6ヶ月から <b>12</b> ヶ月に延びるならば、乗船実習科には進学したくない。	13(15.1%)
⑥学部での船舶実習がモチベーションの維持・高揚に繋がったので、学部での船舶実習を残した方が良い。	43(50.0%)
⑦学部在学中に船舶実習の経験が少ないと、（船舶職員としての） <b>進路選択に不安</b> を感じる。	45(52.3%)
⑧乗船実習科の修了時期が延びることで、 <b>就職が遅れ、経済的な不安</b> を感じる。	22(25.6%)
⑨学部在学中の乗船実習を短縮すると、航海士、機関士としての職業イメージが湧かず、 <b>船舶職員になろうとする学生が減る</b> と思う。	42(48.8%)

6. 学部での船舶実習の期間を短縮し、乗船実習科での乗船期間を現状の6ヶ月から9ヶ月あるいは12ヶ月に延ばした場合について、あなたの意見に近いものを選んでください（複数選択可）。 **4年生：86名**

①継続的に集中して船舶実習ができるので、しっかりとした教育を受けられる。

19(22.1%)

②学部在学中の船舶実習が短くなれば、授業の取り方の自由度が上がって良い。

21(24.4%)

③海技士の資格を取るために必要なので、修了時期が延びても乗船実習科に進学したい。

22(25.6%)

④乗船実習科での乗船期間が6ヶ月から9ヶ月に延びるならば、乗船実習科には進学しない。

7(8.1%)

⑤乗船実習科に進学するならば

・船舶職員になろうとする学生の1/2は、修了時期が遅くなっても、免許取得に必要なならば受け入れる

⑥学部で

・学部内での乗船期間の減少には反対が多い

繋がったので、学部での船舶実習を残した方が良い。

45(52.3%)

⑦学部在学中に船舶実習の経験が少ないと、（船舶職員としての）進路選択に不安を感じる。

45(52.3%)

⑧乗船実習科の修了時期が延びることで、就職が遅れ、経済的な不安を感じる。

22(25.6%)

⑨学部在学中の乗船実習を短縮すると、航海士、機関士としての職業イメージが湧かず、船舶職員になろうとする学生が減ると思う。

42(48.8%)

6. 学部での船舶実習の期間を短縮し、乗船実習科での乗船期間を現状の6ヶ月から9ヶ月あるいは**12ヶ月**に延ばした場合について、あなたの意見に近いものを選んでください（自由記述）。 **4年生：86名**

- 乗船実習科への進学をした上での**陸上企業の就職はかなり難しくなる**と感じる
- **卒業時期がおかしくならないように**にして欲しい。（できれば5年目の9 or 3月卒業になるように）
- 船舶職員を目指す人は乗船実習科の期間にあまり興味がないと思う
- 乗船実習科の日数を減らせるなら減らしてほしい
- 現状では、乗船実習科修了後に陸上のエンジニアとしての就職が難しいため、水産専攻科のように、4年から就活、学部卒業し内定をもらった後に乗船、専攻科修了後に就職というシステムが、乗船実習科に進学後、陸上職に就職を志望した身として、無駄がなくいいと思う
- 学部一年次の実習は前提知識が少なく身に付きにくいいため、座学を積んだ2年次以降の方が効率的と思われる
- 学部での船舶実習の期間を短縮（4年次の船舶実習分を減らす、または無くす）したら、卒論作成などに余裕ができる

7. 海技教育機構の練習船による船舶実習では、他の学校の学生や生徒と混乗となることがあります。これについて、あなたの意見に近いものを選んでください  
(複数選択可)。

**4年生：86名**

①海技士資格の級によって実習内容が異なるので、別々に乗船するようにしてもらいたい。	6(7.0%)
②他の学校の学生や生徒と混乗となることで、実習の効率性が落ちている。	6(7.0%)
③多様な立場や考え方があることを知ることができて良い。	46(53.5%)
④他の学校の学生や生徒と知り合うことができて良い。	46(53.5%)
⑤他の学校の学生や生徒と混乗となることは、あまり気にならない。	51(59.3%)

(自由記述)

- ・乗船経験の長い学生がいることで、見本となる部分があって良い
- ・大手自社養成はいらぬ。直ちに募集停止した方が良い
- ・なんとも思わない。プラスにもマイナスにも思わない
- ・なるべく同程度の学力の人と混乗させた方がいい
- ・いい刺激になる

・他校学生との混乗は気にしておらず、むしろ歓迎している



# 海洋大にとって必要なこと

- 学部内の1か月の**短期実習（サンドイッチ）**の継続
  - 座学と実習による知識の定着
  - 海上職に対する志向性や適性等の確認
  - 短期実習の中止による海上就職者や海事産業への希望の低下 等
- **乗船実習科（35名）・低学年時の乗船実習定員（59名）**の確保
  - 学生の志向性の育成、船社就職およびその他への『海事人材』育成
  - 現4年生は、航海系**38**名、機関系**18**名が希望中
  - 通常触れる機会の少ない船舶・海運等への**First Contact**から志向性
  - 低学年時の実習がなくなると、航海士・機関士志望の学生は激減
- **修了時期の9月または3月の確保**
  - **学生の不利益**の回避
  - 船社以外の就職や大学院進学の時期に対する**影響が大きすぎる**
  - 乗船実習科への進学人数（海技免許取得者）の減少
- 大学の**第一種養成施設**の継続

# 今後の検討のために

- ・大学の12か月の乗船実習をJMETSに集約する
- ・外航3級養成のみの実習を行う

## ● 目的の明確化

- ・ 訓練度（レベル）の異なる多様な実習生による **多科混乗の解消**
- ・ 海技者志向の高い実習生を集約することによる **高効率の実習実施**  
→ 効率的な実習のための **多人数配乗解消**

## ● 多科混乗について

- ・ 定義は？
  - ・ 3級同士の組み合わせは多科になるのか？
- ・ **デメリットもあるが、メリットもある**

## ● 外航3級養成のみの実習について

- ・ 3級海技士：本来は外航・内航の区別はない
- ・ 外航3級実習を行う場合：実習生の **振分け方法**

## ● 多人数配乗について（現在は、定員内）

- ・ **定員設定**に関する問題：訓練に適した定員になっているか
- ・ 現状：**定員内**の→多人数配乗とはいえない
  - ・ 教える側の **リソース（人数・経験・設備等）不足**（多科問題？ 充足率の確保）
  - ・ 各船の **定員見直し**の必要性

## ● 理想

- ・ 1船の **定員を減らし、練習船を増やす**
- ・ （せめて）1船の **教員の人数を増やす**